

2023年2月20日（月）

予算委員会第3分科会（外務省）質問要旨

『 林外務大臣の外交演説について 』

立憲民主党 福田 昭 夫

はじめに

1. 歴史の転換期における日本の外交の指針について

- (1) 歴史の転換期だというのに、引き続き3つの覚悟を持って対応力の高い「低重心の姿勢」で乗り越えられのか
- (2) 「重要なのはいかに中国との有事を避けるかだ」という意見にどうこたえるのか
- (3) 「米中戦争はもう始まっている」という意見にどうこたえるのか
- (4) 「米中和解の仲立ちこそ日本の役割だ」という意見にどうこたえるのか

2. 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化について

- (1) G7議長国及び安保理非常任理事国として、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を堅持するために、具体的に何をするのか
- (2) デジタル貿易に関する日本国と米国との間の協定の問題点について
 - ①令和4年度政府が米国の4社に発注しているガバメントクラウドは、第2条第2項（a）及び（b）の規定に違反するのではないのか
 - ②違反しないとしたら、意図的に先を見越してこの協定を締結したのではないのか

3. 安全保障上の課題への対応について

- (1) 日本の安全保障にかかわる総合的な国力の要素の第一は外交力だというが、5年間で約4.3兆円という防衛力の強化策に裏打ちされないと力強い外交を展開できないのか
- (2) 日米同盟の役割及び任務はどうなっているのか
日米防衛ガイドラインを見直すのか
- (3) 普天間飛行場はほんとうに戻ってくるのか
返還の条件の一つとなっている距離の長い飛行場は用意できるのか
- (4) 日本が戦争できない大きな二つの理由「財政危機」と「原子力発電所」についてどう考えているのか
・ ・ 資料1
- (5) 石橋湛山に学んで「外交政策を遠くを見て改める」考えはないのか ・ ・ 資料2

4. 石橋湛山が学んだ報徳思想で日本と世界の平和を創ろうではないか

- (1) 米中の報徳思想の評価者について
 - ①米国 GHQの新聞課長イン・ボーデン少佐『近世日本が生んだ最初の民主主義者』・ ・ 資料3
 - ②中国 北京大学の劉金才教授、国際二宮尊徳思想学会創設者、初代会長
- (2) 『一円融合』の考えで皆仲良く暮らせる日本・世界を創る ・ ・ 資料4

おわりに

要求大臣：外務大臣

政府参考人：外務省・防衛省